



クラシック音楽の調べ方 ベートーヴェンを知るには？

目次

- 1 クラシック音楽の用語を調べたい時
- 2 作曲家について調べたい時
- 3 楽曲・演奏について調べたい時
- 4 楽譜を探したい時
- 5 CD・レコードの情報を調べたい時
- 6 コンサートの情報を調べたい時
- 7 クラシック音楽資料の調べ方

2020年はベートーヴェンの生誕250年を記念して各地で様々な催しが開かれています。また、第九演奏会が年末の風物詩となっているように、日本でもクラシック音楽の演奏会が私たちの日常に根付き、普段からお気に入りのCDやレコードでクラシック音楽を聴いている方も多いのではないのでしょうか。

今回は「ベートーヴェン」の調べ方を例に、クラシック音楽の調べ方をご紹介します。

1 クラシック音楽の用語を調べたい時

クラシック音楽に関する人物や楽器、音楽用語などわからないことがある時は、まず以下のような資料を使って調べてみましょう。



『クラシック音楽事典』(戸口幸策監修 平凡社 2001)

クラシック音楽の情報に絞り、作曲家や演奏家などの人名項目、古楽、現代音楽関連項目などをまとめた事典。現代の演奏家や楽団の情報が充実しており、さらには出版当時のインターネット情報ガイドも掲載している点が特徴的な資料です。



『音楽大事典 1～6』(平凡社 1981-1983)

クラシック音楽はもちろん、世界中の、全分野の音楽に関する用語の解説がまとめられた総合的音楽事典です。



『ラルース世界音楽事典 上・下』(遠山一行編 海老沢敏編 福武書店 1989)

あらゆる時代および国の音楽に関する情報とその分析について約8,000項目を収録した事典です。声楽曲や器楽曲が独立項目として多く掲載されており、作品事典としての性格が強い資料です。

アイコンの説明



一般書



入門書



専門書



雑誌



インターネット情報



※『音楽大事典』と『ラールス世界音楽事典』は多くの情報を収録した優れた資料ですが、出版年が古い資料のため新しい情報は掲載されていません。新しい情報を調べる際は、埼玉県立図書館で使える、次のデータベースが便利です。



『ジャパンナレッジ Lib オンライン』

(<https://japanknowledge.com/library/> 株式会社ネットアドバンス)

70以上の辞事典、叢書、雑誌が検索できる国内最大級の辞書・事典サイトです。

百科事典を含む複数の事典をまとめて検索でき、最新版のデータを確認できるので、新しい音楽の用語を調べることも可能です。

『ジャパンナレッジ Lib オンライン』のほかにも、埼玉県立図書館では23種類のオンラインデータベースが無料で利用できます。法律やビジネスなど、専門的な情報を入手できるものも取り揃えているので、何か調べものがある時は、ぜひご利用ください。

2 作曲家について調べたい時 (プロフィール、作品リストなど)



『クラシック作曲家事典』

(アルク出版企画／企画・編集 渡辺和彦監修 学習研究社 2007)

クラシックの代表的な作曲家600余人の情報を収録した事典で、国籍や生没年、代表曲と簡単なプロフィールを調べることができます。また、作曲家ごとに「検索キーワード」を記載しており、より詳しく調べる際の参考にも使える資料です。



『クラシック作曲家大全 より深く楽しむために』

(ジョン・バロウズ原書監修 芳野靖夫日本語版監修 日東書院本社 2013)

写真や図をふんだんに用いてクラシック音楽を紹介した資料です。中世から時代順に代表的な作曲家の情報が記載されており、現代の作曲家の情報が充実しています。また、クラシック音楽の概要や代表的な楽器の紹介もあり、入門書としても読むことができます。



『ラールス世界音楽人名事典』(遠山一行編 海老沢敏編 福武書店 1989)

『ラールス音楽事典』の中から、人名に関する項目のみ取り上げて編集された事典。調べる対象が作曲家と決まっているならば、こちらを手にとってみるとよいでしょう。



『音楽家研究文献目録 クラシック・民族音楽』

(日外アソシエーツ株式会社編 日外アソシエーツ 2009)

1980年から2009年6月までに刊行された日本語の図書・雑誌・紀要類からクラシック・民族音楽の作曲家・演奏家等2,452人に関する人物文献を収録した資料です。音楽家について、深く調査・研究する際の資料集めに利用することができます。

☆個人事典（ここでは、ベートーヴェンに関する事典）

歴史的な人物については、その人についてだけを取り扱った事典が出版されていることがあります。人物のより詳細な情報が記されているので、その人物について詳しく調べたい時に使用するとよいでしょう。ここでは、ベートーヴェンの事典を紹介します。



『ベートーヴェン大事典』

（バリー・クーパー原著監修 平野昭〔ほか〕訳 平凡社 1997）

この資料は、音楽作品の情報も掲載されていますが、人間像や歴史的背景、音楽的背景など、ベートーヴェン自身に関する情報を中心とした事典です。参考文献リストのほか、書簡やスケッチ、自筆譜の情報や、関係人名事典などベートーヴェンについて幅広い情報を調べることができます。



『ベートーヴェン事典 全作品解説事典』（平野昭〔ほか〕編著 東京書籍 1999）

未完成作品も含めたベートーヴェン全作品の解説が、曲種ごとにまとめられた事典です。解説のほかに、作曲年や初演、出版、楽曲構成、楽器編成、演奏時間も記載されています。その他に、ベートーヴェンの研究文献一覧や年譜、作品番号対照索引など、ベートーヴェンの研究に役立つ情報も多数掲載されています。



『ベートーヴェン完全詳細年譜』（大崎滋生著 春秋社 2019）

ベートーヴェン生涯の活動を一冊まるごとの年譜としてまとめた資料です。時系列順でベートーヴェンの詳細な活動を追うことができるため、ベートーヴェン本人について詳しく研究する際に参考となる資料です。



『ベートーヴェン 偉大な創造の生涯』

（H.C. ロビンズ・ランドン著 属啓成監修 深沢俊訳 新時代社 1970）

ベートーヴェンの書簡や日記帳、関係人物のベートーヴェン評をまとめた資料です。肖像画や関係人物や都市の図版も数多く掲載されており、こちらもベートーヴェン本人について詳しく研究する際に参考となる資料です。

3 楽曲・演奏について調べたい時

（1）楽曲に関する資料（作曲年や演奏編成などを調べる時）



『クラシック音楽作品名辞典』（井上和男編 三省堂 2009）

作曲家 1,240 名、作品名総数 43,900 点の情報を収録した辞典です。作曲家名順に情報が掲載されており、曲名（日本語と原綴り）と作曲年、編成、初演情報を知ることが出来ます。



『クラシック名曲初演&初録音事典』 (平林直哉著 大和書房 2008)

クラシック音楽について、初の公開演奏を「世界初演」、レコード化する目的で発売した録音を「世界初録音」とし、作曲者名順にその代表曲の情報をまとめた事典です。演奏者やエピソードも記載されています。



『音楽教科書掲載作品 10000 歌い継がれる名曲案内』

(日外アソシエーツ株式会社編 日外アソシエーツ 2011)

1949年(昭和24年)から2009年(平成21年)までの小・中・高校の音楽教科書に掲載された楽曲を作者ごとに記載した目録です。作品名索引もあるので、作者・楽曲どちらからでも調べることができます。



『ラルース世界音楽人名事典』 (遠山一行編 海老沢敏編 福武書店 1989)

『ラルース音楽事典』の中から、作品に関する項目のみ取り上げて編集された事典です。調べる対象の楽曲が決まっている時は、こちらを手にとってみるとよいでしょう。

(2) 楽器に関する資料 (楽器の種類、構造など)



『世界の楽器百科図鑑 楽器の起源と発展』

(マックス・ウェイド＝マシューズ著 別宮貞徳監訳 東洋書林 2002)

世界中の楽器を写真も交えながら紹介した資料です。音楽の歴史についてもわかりやすく記述されており、簡単な用語解説もあるので、入門的に使えます。



『ピアノ図鑑 歴史、構造、世界の銘器』

(ジョン＝ポール・ウィリアムズ著 元井夏彦訳 ヤマハミュージックメディア 2016)

ピアノの歴史や構造について詳しく紹介した資料で、写真やイラストを交えてとてもわかりやすく書かれています。また、世界的なピアノメーカーも紹介されています。



『図解弦楽器用語事典』

(ジョー・ノルドリリョ著 松村洋一郎監修 ヤマハミュージックメディア 2015)

弦楽器について、楽器名や部位、演奏に関するものまで、幅広い用語をまとめた資料です。構造や部位については図を交えて解説されており、わかりやすくまとめられています。

(3) 演奏者に関する資料 (指揮者や演奏者について調べる時)



『最新世界の指揮者名鑑 866』 (音楽之友社 2010)

歴史的な指揮者から現役まで、外国人編 766名、日本人編 100名の指揮者を紹介する資料です。生没年と出身国のほか特に著名な指揮者については詳細な解説と編集者お薦めのCDやDVDの紹介も記載されています。



『日本のプロフェッショナル・オーケストラ年鑑 2018』（日本オーケストラ連盟 2019）
日本オーケストラ連盟に加入しているプロフェッショナル・オーケストラ 36 団体の組織と
年間の活動概況がまとめられた資料です。団体情報を調べられるほか、団体が開催した国内
外の演奏会とプログラムを調べることも可能です。



『日本の演奏家 クラシック音楽の 1400 人』
（日外アソシエーツ株式会社編 日外アソシエーツ 2012）
日本人の演奏家の情報をまとめた資料です。プロフィールや所属団体、経歴などが書かれて
います。代表的な人物については代表作となる作品のCD情報もあります。

4 楽譜を探したい時



《楽譜ネット》(<http://www.gakufu.ne.jp/search/keyword.php> 楽譜ネット)
曲名・作詞者・作曲者・歌手名から検索可能で、その楽譜が掲載されている資料を見つける
ことができます。



《楽譜：全音ウェブサイト》(<http://www.zen-on.co.jp/score/> 全音楽譜出版社)
全音楽譜出版社で出版している楽譜を検索することができます。「オーケストラ」や「ピアノ」
などジャンル別のページがあり、カテゴリから探すことも可能です。



《IMSLP ペトルッチ楽譜ライブラリー》
(<https://imslp.org/wiki/%E3%83%A1%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%9A%E3%83%BC%E3%82%B8>
Project Petrucci LLC)
パブリックドメインとなった楽譜を中心に、世界中の楽曲の楽譜が PDF 等のファイルで公開
されている海外のウェブサイトです。ベートーヴェンの楽譜もを見つけることができます。



パブリックドメインとは…著作権により保護されていた著作物が、著作権の保護期間を
経過して社会の公共財産になり、だれでも自由に利用できるようになったものをいう。
（『日本大百科全書』（小学館）[瀧野秀雄]）

5 CD・レコードの情報を調べたい時



『作曲家別クラシックCD & LD DVD 総目録 2000 年版』
（レコード芸術編 音楽之友社 2000）
2000 年 1 月までに市販されたクラシックの CD、LD、DVD を作曲家別に分類し、収録した目録
です。オムニバス CD も曲種ごとに分け、演奏者名アルファベット順に配列されています。

レコードについても、『作曲家別クラシック・レコード総目録』が同じ音楽之友社から1990年版まで出版されています。

『レコード芸術』（音楽之友社 〈月刊〉）

「新譜月評」「新譜CD&ビデオ一覧表」「海外版REVIEW」など新譜CDの情報が数多く取り上げられています。また、毎年1月号に「レコードイヤーズブック」という別冊付録があり、前年に国内で販売されたクラシック音楽のCD・DVD/BDの情報をまとめて見ることができます。

6 コンサート情報を調べたい時

『音楽の友』（音楽之友社 〈月刊〉）

毎月の別冊付録「コンサート・ガイド & チケット・インフォメーション」にその月に国内で開催されるコンサートの情報がまとめられています。また、本誌には開催された演奏会のレビューが掲載されています。

『Web版コンサート・ガイド』

(<https://www.ongakunotomo.co.jp/concert/> 音楽之友社)

国内で開催されるコンサートを検索できるウェブサイトです。出演者や団体などからのフリーワード検索のほか、期間や開催場所、ジャンルを絞って調べることも可能です。

『音楽現代』（芸術現代社 〈月刊〉）

毎月の注目の演奏会についてプレビュー記事が掲載されています。また、その他の国内演奏会情報のほか、新譜評などクラシック音楽の幅広い情報が紹介されています。

『Philharmony（フィルハーモニー）』（NHK交響楽団 〈月刊〉）

NHK交響楽団が発行している定期刊行物で、NHK交響楽団が開催するコンサートの情報がまとめられています。また、公演プログラムについて詳しい解説も掲載されています。



図書は発行されるまでに長い時間がかかるため、正確な情報を知ることができる一方、情報が古くなってしまいうこともあります。新しい情報を調べる時は、雑誌やオンラインデータベースなどのインターネット情報を利用するといいでしょう。

ただし、情報の正確性・信頼性に注意！
(情報源をよく確認しましょう)

7 クラシック音楽資料の調べ方

上記の資料以外に、ご自分で新たな資料を探したい時は以下の方法で探してみましょう。

(1) 図書館にある資料の探し方

▼ “音楽” に関連した本を探す際の分類コード

図書館では、共通した分類番号を元に各書棚に本を並べています。
分類番号を参考に探してみてもいいでしょうか。
クラシック音楽に関わる番号は、下記になります。

【76】音楽. 舞踊

【760】音楽 【762】音楽史、各国の音楽 【763】楽器. 器楽
【764】器楽合奏 【765】宗教音楽. 聖楽 【766】劇音楽 【769】舞踊. バレエ

▼参考図書 (Reference book) を使って探す

図書館には、「本を探すための本」が数多く揃えられています。ここでは、クラシックに関する図書を探すための本をご紹介します。



『音楽・芸能レファレンスブック』

(日外アソシエーツ株式会社編 日外アソシエーツ 2016)

音楽・芸能に関する書誌、事典、ハンドブックなど参考図書の目録です。p.166～の「クラシック全般」の項目に、クラシックに関する参考図書が数多く紹介されているので、調査のはじめの一歩に用いるとよい資料です。



『西洋人物レファレンス事典 音楽篇』

(日外アソシエーツ株式会社編 日外アソシエーツ 2012)

西洋音楽分野の人物が、どの事典にどの名前で掲載されているかが一覧できる総索引です。人名のほか、活動年代や国名、肩書、業績など最低限のプロフィールも記載されています。日本人については、『人物レファレンス事典 音楽篇』(日外アソシエーツ株式会社編 日外アソシエーツ 2013) で調べることができます。

▼インターネットで探す

図書館の資料は、以下のようなウェブサイトで検索することができます。検索の際は、探している作家や作品の名前をキーワードに入れて検索しましょう。



《埼玉県内図書館横断検索》

(<https://www.lib.pref.saitama.jp/calil/index.html> 埼玉県立図書館)

埼玉県内の市町村立図書館等の蔵書を一度に検索することができます。



《国立国会図書館サーチ》(<http://iss.ndl.go.jp/> 国立国会図書館)

国立国会図書館が所蔵する全ての資料をはじめ、全国の公共図書館、公文書館、美術館や学術研究機関等が所蔵する資料を検索できます。



《CiNii Articles》(<https://ci.nii.ac.jp/> 国立情報学研究所)

学協会刊行物・大学研究紀要・国立国会図書館の雑誌記事索引データベースなどの学術論文情報を検索することができる。また、一部の論文は、大学の機関リポジトリなどへのリンクが貼ってあり本文を読むことが可能。

(2) 図書館以外の施設で探す

図書館以外にも、音楽に関する資料を持つ専門施設が数多く存在します。その中から、インターネット上からも資料を検索できる施設をご紹介します。



《東京文化会館音楽資料室》

(<https://www.t-bunka.jp/library/index.html> 東京文化会館)

クラシック音楽を中心に、民族音楽、邦楽、舞踊などの資料を無料で閲覧・視聴できる施設です(中学生以上どなたでも入館可)。所蔵資料は、音源資料約73,000枚、映像資料約4,200枚、楽譜約34,000冊、図書約20,000冊、音楽雑誌約690タイトル、1961年4月からの東京文化会館公演プログラムなど。蔵書検索で図書、雑誌、楽譜、CD、映像資料が探せます。



《民音音楽博物館》

(<https://museum.min-on.or.jp/top.html> 民音音楽博物館)

西洋の音楽芸術を中心とした音楽専門博物館です。音楽ライブラリーには、クラシック音楽を中心に12万点以上の録音資料、4万点を超す楽譜、3万冊の音楽書を所蔵している施設です(要利用登録)。所蔵する資料は、「民音音楽博物館 WebOPAC」より検索ができます。



《歴史的音源》(<https://rekion.dl.ndl.go.jp/> 国立国会図書館)

国立国会図書館デジタルコレクション内の資料のうち、歴史的音源のみを検索・再生するためのウェブサイトです。1900年初頭から1950年頃までに国内で製造されたSP盤及び金属原盤等に収録された音楽・演説等、約5万の音源を検索・再生できます。

※インターネット上で再生できるのは、パブリックドメインの音源のみです。それ以外は、配信提供参加館となっている施設および国立国会図書館の館内のみで視聴できます。

(埼玉県立図書館も配信提供参加館です。)